

○計画期間:令和4年4月～令和9年3月(5年)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和5年度終了時点(令和6年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市は、認定基本計画において「また訪れたい、ずっと暮らしたい、歴史・文化・芸術と共に育つ郷町(まち)」をコンセプトとし、目標として「歴史・文化・芸術を身近に感じる、何度も訪れたい郷町(まち)」、「点から面へのつながりが、新たな価値を創造する郷町(まち)」、「あらゆる人に、安全・安心・快適を提供する郷町(まち)」を、目標指標として「文化施設等(5施設)利用者数」、「中心市街地4エリアにおける1日あたりの流動人口(4エリア合計)」、「中心市街地における1階空き店舗数」、「中心市街地における居住人口(社会増減数)」を掲げている。

令和5年度は、本市最大規模のイベントである「いたみ花火大会」も8月に開催し、4年ぶりに露店出店を再開したほか初めて特別観覧席が設置され、中心市街地のにぎわい創出や流動人口増加に寄与した。

三軒寺前広場を中心としたイベント等のソフト事業に関しては、「イタミ朝マルシェ」が毎月定例開催されたことに加え、「伊丹郷町屋台村」「アリオ de ハンドメイド&フリーマーケット」「クリスマスマーケット」「白雪蔵まつり」「冬の元気まつり」など通年に渡って多種多様なイベントが開催された。また、本市を代表する食べ歩き・飲み歩きイベントである「伊丹まちなかバル」は春と秋の年2回開催され、イベント等ソフト事業による中心市街地全体の賑わい創出を十分に図ることができた。

「市立伊丹ミュージアム」や「図書館ことば蔵」などの文化施設等(5施設)の利用者数は、「市立伊丹ミュージアム」のオープン初年度となった令和4年度と比較すると令和5年度は減少しているが、入場制限など新型コロナウイルス感染症対策のための規制が緩和されたことで、「音楽ホール」や「図書館ことば蔵」の利用者数は増加傾向にある。

一方で、中心市街地における居住人口は、市内全体の人口減少に合わせて、減少しており、中心市街地における1階の空き店舗数は79店舗と増加傾向にある。しかしながら、中心市街地の空き店舗数全体は昨年度より減少しており、中心市街地内の営業店舗数としても過去5年間で最多となるなど、新規の出店傾向が継続している。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(基準日：毎年度1月1日)

(中心市街地 区域)	令和3年度 (計画前年度)	令和4年度 (1年目)	令和5年度 (2年目)	令和6年度 (3年目)	令和7年度 (4年目)	令和8年度 (5年目)
人口	14,828	14,940	14,926			
人口増減数	▲65	112	▲14			
自然増減数	9	▲30	▲13			
社会増減数	▲74	142	▲1			
転入者数	527	697	603			

2. 令和5年度の実績等に対する中心市街地活性化協議会の意見

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが感染症法上の5類感染症に移行され、コロナ禍以前のにぎわいを取り戻しつつある1年となった。

当協議会においては、引き続き「イタミ朝マルシェ」や「クリスマスマーケット」「いたみ冬の元気まつり」、「鑑賞 de 寄っトク！ itami」等のイベントを実施し、「伊丹まちなかバル」を春と秋の2回開催することが出来た。また、8月に開催された「いたみ花火大会」では約55,000人が来場されたり、日本遺産を活用した事業展開などイベントやソフト事業によって中心市街地のにぎわい創出が図られたことは評価できる。

文化施設等(5施設)利用者数が昨年度と比較して減少している点は、「市立伊丹ミュージアム」の令和4年のオープン初年度からの反動と推察できるが、他の施設においては利用者数の増加傾向も見受けられるため、今後は全体として利用者数が増加していくことを期待する。

一方で、「中心市街地における1階空き店舗数」は増加しており、中心市街地の居住人口も減少に転じている。日本全体の人口が減少していく中で、地方が持続的な発展を目指す意義も大きくなっているため、今後更なる中心市街地活性化のための取り組みを推進されたい。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
歴史・文化・芸術を身近に感じ、何度も訪れたい郷町(まち)	文化施設等(5施設)利用者数	875,344 人 (R1)	926,600 人 (R8)	725,897 人 (R5)	C	①	①
	中心市街地 4 エリアにおける 1 日あたりの流動人口(4 エリア合計)	168,064 人 (R1)	167,814 人 (R8)	104,460 人 (R5)	C	①	①
点から面へのつながりが、新たな価値を創造する郷町(まち)	中心市街地における 1 階空き店舗数	65 店舗 (R1)	54 店舗 (R8)	79 店舗 (R5)	C	①	①
あらゆる人に、安全・安心・快適を提供する郷町(まち)	中心市街地における居住人口(社会増減数)	18 人 (R1)	104 人 (R8)	88.8 人 (R5)	B	①	①

< 基準値からの改善状況 >

A : 目標達成、B : 基準値より改善、C : 基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類 >

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ 1、2 とする。

2. 目標達成見通しの理由

「文化施設等(5施設)利用者数」については、「市立伊丹ミュージアム」がオープン初年度である昨年度より来館者数は減少したため、全体として昨年度より減少している。しかし、中心市街地と連携したイベント数が大幅に増加し来場者数も増加していること、「図書館ことば蔵」においても市民と連携したイベントが活発に行われ参加者数が大きく増加していることもあり、引き続き各事業を実施し、目標の達成を目指す。

「中心市街地 4 エリアにおける 1 日あたりの流動人口(4 エリア合計)」については、令和 5 年 5 月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが 5 類に変更になったこともあり、中心市街地の 4 極を結ぶ 2 軸の結節点である三軒寺前広場を中心に数多くのイベントが開催され、各エリアとも前年度より流動人口が増加した。特に、「イタミ朝マルシェ」や「白雪蔵まつり」など過去最高の来場者数となったイベントも多く、民間主体による新規イベントの企画も活発に行われていることから、引き続き各事業を実施し、目標の達成を目指す。

「中心市街地における 1 階空き店舗数」については、依然新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、1 階の空き店舗数は 7 店舗増加している。一方で、中心市街地全体の空き店舗数は減少に転じ、営業店舗は過去 5 年間で最多となるなど、中心市街地での新規出店は継続して見受けられる。引き続き各事業を継続し、中心市街地全体のエリア価値向上を図ることで、目標の達成を目指す。

「中心市街地における居住人口(社会増減数)」については、本市においても少子高齢化が進む中、市内全体の減少に合わせて中心市街地内も減少に転じた。転入促進・転出抑制を図ることが重要であり、引き続き各事業を継続していくことで中心市街地をはじめとした本市の安全・安心な居住環境の整備を進めるとともに、「シティプロモーション事業」で子育て世代をターゲットにしたリスティング広告(Google)やSNS広告(LINE)を活用し本市の魅力発信を行うことや、伊丹商工プラザの男女共同参画センター「ここいろ」内に常設のひろばを開設し、遊びや交流、育児相談の場を提供する「地域子育て拠点支援事業」など、居住環境の付加価値を高めるための取り組みを継続することで、中心市街地における居住人口の増加を目指す。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

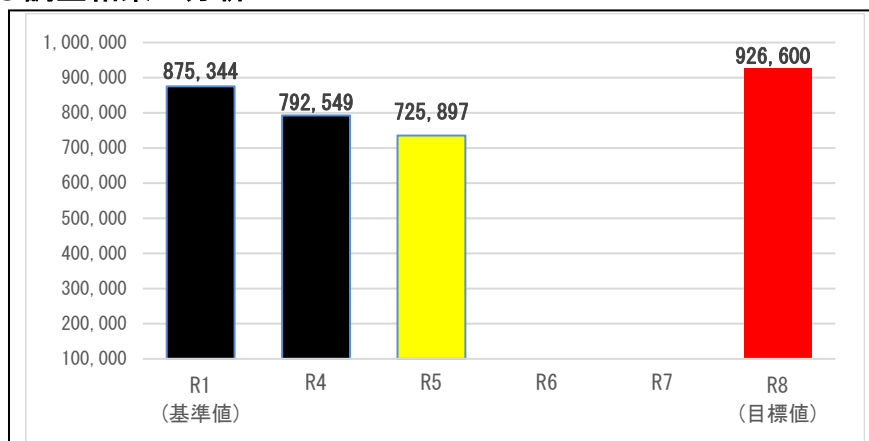
前回からの変更はなし。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1)「文化施設等(5施設)利用者数」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 95～P. 97 参照

●調査結果と分析



年	(人)
R1	832,628 人 (基準年値)
R4	792,549 人
R5	725,897 人
R6	人
R7	人
R8	926,600 人 (目標値)

※調査方法：各文化施設利用者及びイベント入場者集計

※調査月：令和5年度(令和6年3月末)

※調査主体：伊丹市

※調査対象：各文化施設(市立伊丹ミュージアム、東リ いたみホール、
伊丹アイフォニックホール、アイホール、図書館)

	令和 5 年度の来館者数は、オープン初年度であった昨年度より減少しているものの、市立伊丹ミュージアム内の旧石橋家住宅（町屋）内で市内の民間事業者や団体が様々なものを展示、飲食物の販売を行う連携事業「郷町〇店」が 60 回開催されたほか、多くの講座やワークショップが開催され延べ 58,435 人が参加し、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後到来館者増に繋がる企画展を行うとともに、当該施設内における魅力ある講座やワークショップを行い、当該施設と中心市街地の店舗等と連携した事業も展開しながら、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

②. 文化施設連携事業（（公財）いたみ文化・スポーツ財団、伊丹まち未来㈱、伊丹市）

事業実施期間	平成 20 年度～【実施中】
事業概要	文化施設同士が連携した事業を実施することで有機的連携を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：2,100 人増(R4～R8) 最新値：1,614 人増（R4～R5） 令和5年度は、文化施設と中心市街地内の飲食店等との連携事業である「鑑賞 de 寄ットク！itami」の事業対象施設を拡大して引き続き実施し、アンケート回答者数は前年度の 199 件から 1,415 件と大幅に増加した。 また、江戸時代の庶民の秋の楽しみ方である「虫聴き」という風習を現代風にアレンジした企画である「鳴く虫と郷町」も引き続き 9 月に 10 日間開催した。メイン会場となる市立伊丹ミュージアムをはじめ、中心市街地内の商店街、文化施設、街路樹などから、秋の鳴く虫の音色が響き渡り、また音楽ライブや体験イベントなどの関連イベントも数多く行われ、中心市街地内の文化施設利用者数増に寄与した。
事業の今後について	「鑑賞 de 寄ットク！itami」では、対象となる文化施設での公演数や中心市街地内の飲食店等の参加を増やすなどの工夫を行うとともに、「鳴く虫と郷町」をはじめとした中心市街地内の文化施設と周辺の商店街等と一体になった連携事業を継続して実施することで来館者増を目指す。

③. 日本遺産連携事業（伊丹市）

事業実施期間	令和 4 年度～【実施中】
事業概要	日本遺産のストーリーの魅力を伝えるイベント事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和 4 年度～令和 8 年度）

事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：400 人増(R4～R8) 最新値：380 人増 (R4～R5) 2025 年大阪・関西万博が開催されることに伴い、兵庫県内で実施されるフィールドパビリオンのプレイイベントとして、『「清酒発祥の地 伊丹」五感で体感 酒蔵見学・試飲ツアー』を実施し、「聴く」「飲む」「見る」など五感を通し、伊丹の酒造りや、日本遺産を知る機会を創出し、合計 60 名が参加した。 また、中心市街地内において、日本遺産を PR するための「のぼり」や菰樽を継続して設置した。加えて、JR 伊丹駅横の観光物産ギャラリーに設置している伊丹の日本酒の有料試飲機は 1,739 杯提供され、試飲対象銘柄の販売実績は試飲機設置前と比較し約 2 倍となり、あわせて試飲から販売にも繋がっている。その他、中心市街地内で行われるイベントとの連携では、「伊丹まちなかバル」へ出展し、日本酒の味わい方や日本遺産のストーリーを学ぶ講座には 40 名の参加、菰樽作りの実演には延べ 70 名程度の方が見学するなど、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、各イベントや施設での日本遺産パンフレットの配布、日本遺産紹介動画の放映などにより更なる PR をはじめ、酒蔵等を活用した講座や中心市街地内のイベントとの連携を継続的に実施することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

④. 体験型周遊イベント事業(伊丹市中心市街地活性化協議会、伊丹市など)

事業実施期間	令和 4 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地内の歴史資源・文化施設や商店街等を巡る体験型イベントを実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和 4 年度～令和 8 年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：6,240 人増(R4～R8) 最新値：0 人増 (R4～R5) 令和 5 年度は、歴史資源や文化施設等を活用した「謎解き」などの要素を取り入れた体験型周遊イベントの実施に向けた検討を行ったが、実施には至らなかった。
事業の今後について	今後は、他の自治体等での事例を参考に、事業の実施に向けた内容の検討を行い、イベント実施による各来館者増を目指す。

⑤. 図書館連携事業(伊丹市)

事業実施期間	平成 24 年度～【実施中】
事業概要	市民、図書館職員による交流事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和 4 年度～令和 8 年度)

事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：2,000 人増(R4～R8) 最新値：6,179 人減 (R4～R5) 令和 5 年度は、年間延べ 313,086 人が図書館ことば蔵に来館した。図書館ことば蔵が主催するイベントのほか、市民・利用者が主催するイベントなど、あわせて 202 件（参加人数：5,459 名）が開催され、前年の参加人数 2,574 人と比較して大きく参加者数が増加した。さらに、市内の民間事業者や団体、他施設との連携事業を実施するなど、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	当該事業について、来館者数、イベント参加者数ともに年々増加しており、中心市街地活性化に大きく寄与している。今後も継続して交流事業を継続し、来館者増を目指す。

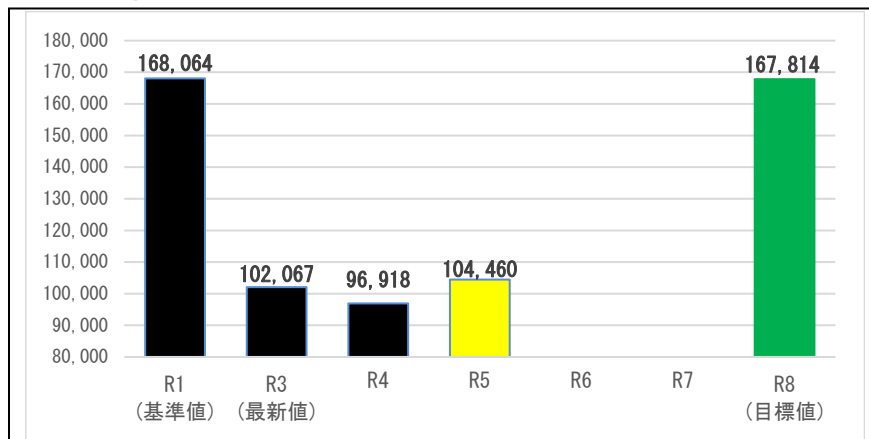
●目標達成の見通し及び今後の対策

未だ新型コロナウイルス感染症の影響は受けるものの、主要事業は概ね順調に進捗している。今後は、各文化施設でのさらなる来館者増加を目指すため、各イベントについてより魅力ある内容となるための創意工夫を行うとともに、「市立伊丹ミュージアム」を中心として様々な企画を展開していく。また、既存事業である「鑑賞 de 寄っトク！itami」や日本遺産関連事業を強化していくこと等を通じて、中心市街地全体の回遊性向上も目指す。

（２）「中心市街地 4 エリアにおける 1 日あたりの流動人口（4 エリア合計）」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 98～P. 105 参照

●調査結果と分析



年	(人)
R1	168,064 人 (基準年値)
R3	102,067 人
R4	96,918 人
R5	104,460 人
R6	人
R7	人
R8	167,814 人 (目標値)

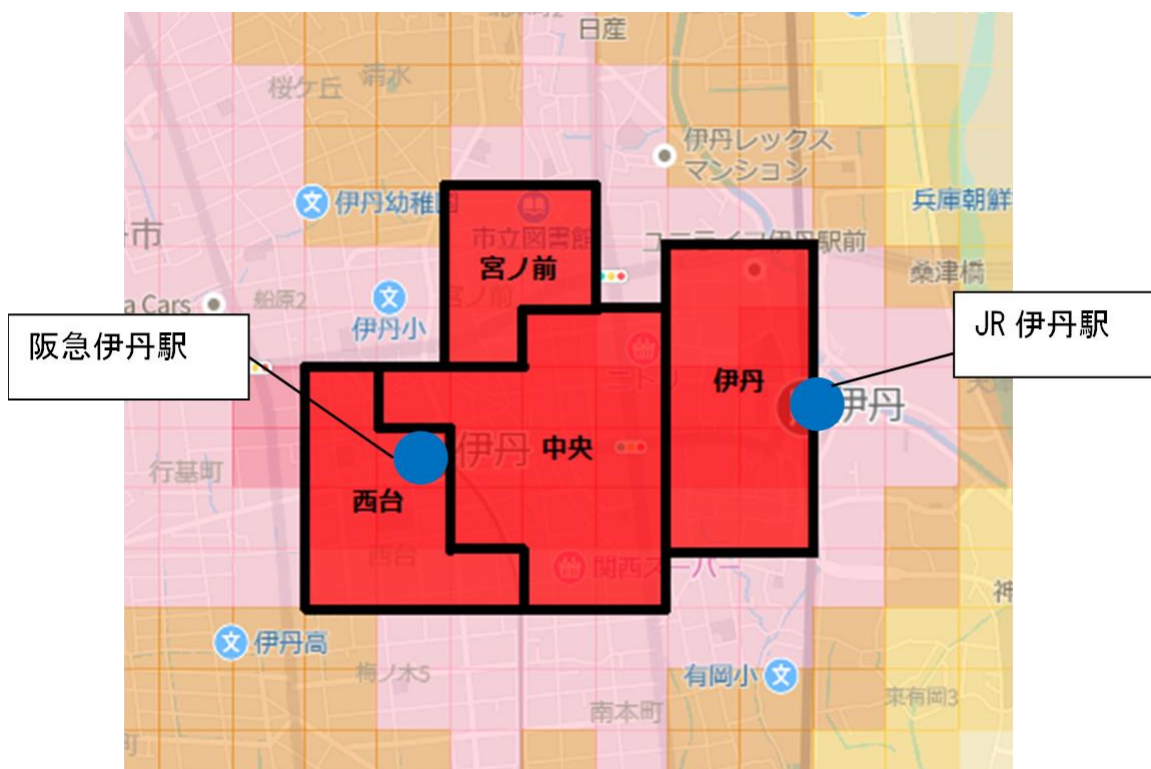
※調査方法：「DS. INSIGHT」を使い、中心市街地内で一定時間(2分以上)滞在する住民と来訪者の延べ人数。

※調査月：令和 5 年度(令和 6 年 3 月末)

※調査主体：伊丹市

※調査対象：「DS. INSIGHT」で設定可能な最小 125m 四方のメッシュを組み合わせ、本計画の

計画区域を超えない範囲で形成した「伊丹」、「宮ノ前」、「中央」、「西台」の4エリア



(単位：人)

年度	月	エリア別 1 日あたり流動人口 (平均値)				4 エリア合計
		伊丹	宮ノ前	中央	西台	
R1	10～12	44,170	27,554	56,136	40,204	(基準値) 168,064
	1～3	40,420	23,220	53,333	39,173	(参考値) 156,146
R2	4～3	29,842	17,424	40,426	29,858	(参考値) 117,550
R3	4～11	25,681	15,289	34,684	26,413	102,067
R4 (1 年目)	4～3	25,519	13,248	32,917	25,233	96,918
R5 (2 年目)	4～3	27,319	14,488	35,354	27,307	104,460
R6 (3 年目)	4～3					
R7 (4 年目)	4～3					
R8 (5 年目)	4～3					

〈分析内容〉

新型コロナウイルス感染症の影響は未だに残るものの、本市を代表するイベントである「伊丹まちなかバル」を春と秋の年 2 回開催し、計 16,000 人の参加者が中心市街地を訪れた。さらには、中心市街地の 4 極 2 軸の結節点である三軒寺前広場では、「イタミ朝マルシェ」も定期的に

開催し、さらには「クリスマスマーケット」「いたみ冬の元気まつり」や「伊丹郷町屋台村」が開催されたほか、本やダンス・スポーツ・国際文化などをテーマとした各種イベントやこども向けイベント、官公庁主導の周知啓発イベント等、延べ 107 日間三軒寺前広場が活用された。

また、本市最大規模のイベントである「いたみ花火大会」も開催され、4 年ぶりに露店出店を再開したことに加えて、初めて特別観覧席を設定した。来場者数は、約 55,000 人となり、会場近くの中心市街地における回遊も促進された。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 三軒寺前広場活用イベント事業(伊丹市中心市街地活性化協議会)

事業実施期間	平成 14 年度～【実施中】
事業概要	三軒寺前広場でマルシェイベント、元気をテーマにしたイベント等を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：4,187 人増(R4～R8) 最新値：1,502 人増(R4～R5) 令和 5 年度は、毎月 1 回日曜日に実施する「イタミ朝マルシェ」を 11 回開催し、延べ 10,098 人が参加した。12 月には 4,500 人が参加した「クリスマスマーケット」を開催し、2 月の白雪蔵まつりと同時開催の「いたみ冬の元気まつり」には 5,000 人が参加した。その他、民間事業者が主体となって、スポーツや国際文化等をテーマとしたイベントやこども向けのイベントが多数開催され、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、三軒寺前広場を活用したマルシェ形式のイベントを継続的に実施しつつ、民間主体イベントの積極的な開催を促しながらさらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

②. 市立伊丹ミュージアム連携事業(伊丹市、伊丹ミュージアム運営共同事業体など)

※再掲

事業実施期間	令和 4 年度～【実施中】
事業概要	令和 4 年 4 月にオープンする市立伊丹ミュージアムを中心に産官学が連携した魅力的なソフト事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：13,760 人増(R4～R8) 最新値：1,421 人減(R4～R5) 令和 5 年度の来館者数は、オープン初年度であった昨年度より減少しているものの、市立伊丹ミュージアム内の旧石橋家住宅(町屋)内で市内の民間事業者や団体が様々なものを展示、飲食物の販売を

	行う連携事業「郷町〇店」が 60 回開催されたほか、多くの講座やワークショップが開催され延べ 58,435 人が参加し、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も来館者増に繋がる企画展を行うとともに、当該施設内における魅力ある講座やワークショップを行い、当該施設と中心市街地の店舗等と連携した事業も展開しながら、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

③. 日本遺産連携事業(伊丹市)

※再掲

事業実施期間	令和 4 年度～【実施中】
事業概要	日本遺産のストーリーの魅力を伝えるイベント事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和 4 年度～令和 8 年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：3,333 人増(R4～R8) 最新値：3,440 人増(R4～R5) 2025 年大阪・関西万博が開催されることに伴い、兵庫県内で実施されるフィールドパビリオンのプレイイベントとして、『「清酒発祥の地 伊丹」五感で体感 酒蔵見学・試飲ツアー』を実施し、「聴く」「飲む」「見る」など五感を通し、伊丹の酒造りや、日本遺産を知る機会を創出し、合計 60 名が参加した。 また、中心市街地内において、日本遺産を PR するための「のぼり」や菰樽を継続して設置した。加えて、JR 伊丹駅横の観光物産ギャラリーに設置している伊丹の日本酒の有料試飲機は 1,739 杯提供され、試飲対象銘柄の販売実績は試飲機設置前と比較し約 2 倍となり、あわせて試飲から販売にも繋がっている。その他、中心市街地内で行われるイベントとの連携では、「伊丹まちなかバル」へ出展し、日本酒の味わい方や日本遺産のストーリーを学ぶ講座には 40 名の参加、菰樽作りの実演には延べ 70 名程度の方が見学するなど、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、各イベントや施設での日本遺産パンフレットの配布、日本遺産紹介動画の放映などにより更なる PR をはじめ、酒蔵等を活用した講座や中心市街地内のイベントとの連携を継続的に実施することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

④. 体験型周遊イベント事業、文化施設連携事業を始めたとした回遊性向上に向けた事業(伊丹市中心市街地活性化協議会、伊丹市など)

事業実施期間	令和 4 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地内の歴史資源・文化施設や商店街等を巡る体験型イベント、文化施設等が連携した事業を実施する。

国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和4年度～令和8年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：4,287人増(R4～R8) 最新値：－ ※最新値については、当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 歴史資源や文化施設等を活用した「謎解き」などの要素を取り入れた体験型周遊イベントの実施に向けた検討を行ったが、実施には至らなかった。 文化施設等との連携事業に関しては、文化施設と中心市街地内の飲食店等との連携事業である「鑑賞 de 寄っトク! itami」の事業対象施設を拡大して引き続き実施し、チケット利用者数は前年度の199件から1,415件と大幅に増加した。 また、江戸時代の庶民の秋の楽しみ方である「虫聴き」という風習を現代風にアレンジした企画である「鳴く虫と郷町」も引き続き9月に10日間開催した。メイン会場となる市立伊丹ミュージアムをはじめ、中心市街地内の商店街、文化施設、街路樹などでは、秋の鳴く虫の音色が響き渡り、また音楽ライブや体験イベントなどの関連イベントも数多く行われ、中心市街地内の文化施設利用者数増に寄与した。
事業の今後について	今後は、引き続き文化施設との連携事業を継続しつつ、他の自治体等での事例を参考にして、体験型周遊イベント事業の実施に向けた内容の検討を行い、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑤. 公共交通を活用した中心市街地誘客事業(伊丹市)

事業実施期間	令和4年度～【実施中】
事業概要	大阪国際空港(伊丹空港)と中心市街地とを結ぶ「空港アクセスバス」の利便性PRや中心市街地内でのイベント、各店舗との連携事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和4年度～令和8年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 中心市街地と伊丹空港を結ぶ25系統便は、兵庫県からの補助を受けたラッピング車両等で運行しており、令和5年度は、乗車人数が昨年より増加し、年間484,449人が乗車した。また、「空港アクセスバス」のラッピング車両は、市内の各路線を走行しており、

	市民をはじめ多くの人に「空港アクセスバス」の利便性PRを行った。 加えて、5月及び10月に計2回、中心市街地内で開催した「伊丹まちなかバル」において、100 円の特別割引乗車券を発行し、921 人が利用するなど、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後、大阪国際空港(伊丹空港)の利用者数の増加にあわせて「空港アクセスバス」の利用者も増加することが想定されることから、さらなる利便性PRを行うとともに、中心市街地内でのイベントや、交通局が取り組む中心市街地をはじめとした市内の店舗との連携事業も継続することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑥. 文化施設連携事業((公財)いたみ文化・スポーツ財団、伊丹まち未来(株)、伊丹市)

※再掲

事業実施期間	平成 20 年度～【実施中】
事業概要	文化施設同士が連携した事業を実施することで有機的連携を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和5年度は、文化施設と中心市街地内の飲食店等との連携事業である「鑑賞 de 寄っトク！itami」の事業対象施設を拡大して引き続き実施し、チケット利用者数は前年度の 199 件から 1,415 件と大幅に増加した。 また、江戸時代の庶民の秋の楽しみ方である「虫聴き」という風習を現代風にアレンジした企画である「鳴く虫と郷町」も引き続き9月に10日間開催した。メイン会場となる市立伊丹ミュージアムをはじめ、中心市街地内の商店街、文化施設、街路樹などでは、秋の鳴く虫の音色が響き渡り、また音楽ライブや体験イベントなどの関連イベントも数多く行われ、中心市街地内の文化施設利用者数増に寄与した。
事業の今後について	「鑑賞 de 寄っトク！itami」では、対象となる文化施設での公演数や中心市街地内の飲食店等の参加を増やすなどの工夫を行うとともに、「鳴く虫と郷町」をはじめとした中心市街地内の文化施設と周辺の商店街等と一体になった連携事業を継続して実施することで来館者増を目指す。

⑦. 図書館連携事業(伊丹市)

※再掲

事業実施期間	平成 24 年度～【実施中】
事業概要	市民、図書館職員による交流事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和 4 年度～令和 8 年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和 5 年度は、年間延べ 313,086 人が図書館ことば蔵に来館した。図書館ことば蔵が主催するイベントのほか、市民・利用者が主催するイベントなど、あわせて 202 件(参加人数：5,459 名)が開催され、前年の参加人数 2,574 人と比較して大きく参加者数が増加した。さらに、市内の民間事業者や団体、他施設との連携事業を実施するなど、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	当該事業について、来館者数、イベント参加者数ともに年々増加しており、中心市街地活性化に大きく寄与している。今後も継続して交流事業を継続し、来館者増を目指す。

⑧. いたみ花火大会の開催(いたみ花火大会実行委員会、伊丹市)

事業実施期間	昭和 56 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地隣接地域で花火大会を開催する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和 4 年度～令和 8 年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和 5 年度は、中心市街地の東側に隣接する猪名川河川敷で 8 月に夏の風物詩である花火大会を開催し、約 55,000 人の集客があった。今回の花火大会では、4 年振りとなる音楽連動花火によるフィナーレや露店出店に加え、初めての取り組みとなる特別観覧席の設置を行った。JR 伊丹駅に隣接する大型商業施設をはじめ、中心市街地内の飲食店等も多くの人々が利用するなど、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、中心市街地全体の賑わい創出のため、飲食店等におけるさらなる売り上げ増加に繋げる取り組みを通じて、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑨. まちなか大規模イベントの開催(商店街、民間事業者、伊丹市など)

事業実施期間	平成 10 年度～【実施中】
事業概要	四季おりおりの大規模イベントを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和 4 年度～令和 8 年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和5年度は、夏には伊丹小学校で「伊丹ふれあい夏まつり」が、金剛院においては「愛染まつり」が開催された。秋には「宮前まつり」(10,000 人参加)、冬には「白雪蔵まつり」(13,000 人参加)、が行われるなど、四季折々のイベントが開催され中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も引き続き、中心市街地内における大規模イベントを開催し、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑩. 伊丹まちなかバルの開催(伊丹市中心市街地活性化協議会)

事業実施期間	平成 21 年度～【実施中】
事業概要	年 2 回(春・秋)定期的に中心市街地内の飲食店を中心に食べ歩き飲み歩きイベントを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和5年度は 5 月の春バル及び 10 月の秋バルを開催した。 春バルは、78 店舗(初参加 13 店舗)が参加し、提供食数は 14,912 食となった。また、秋バルは、70 店舗(初参加 5 店舗)が参加し、提供食数は 14,207 食となった。29 回目の開催となり中心市街地を代表するイベントとして、過去開催からリピートして来場する参加者も多く、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。 その他、本部がある三軒寺前広場には協賛企業のイベントブースをはじめ、「阪神間日本遺産推進協議会」による PR ブースも出展され、伊丹の日本酒の無料試飲やおおぞら講座も行われるなど日本遺産の周知・啓発が行われた。
事業の今後について	今後も、イベント規模を維持しながらバルを継続して開催することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑪. 伊丹郷町屋台村の開催(伊丹郷町商業会)

事業実施期間	平成 23 年度～【実施中】
事業概要	年 2 回(夏・冬)定期的に三軒寺前広場で屋台での飲食イベントを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和 3 年度から年 2 回を年 1 回、開催日数を 3 日から 2 日へと変更して、令和 5 年度は 9 月 30 日、10 月 1 日に開催した。両日とも商店会に加盟する飲食店の屋台をはじめ、ステージでは歌やダンスなどが行われ、来場者数は約 10,000 人となり、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、伊丹郷町屋台村を継続して開催することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑫. アリフリ事業の開催(アリオ名店会)

事業実施期間	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	商店街主催のフリーマーケットを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和 5 年度は 4 月と 10 月に JR 伊丹駅近くの有岡城跡史跡公園にて「アリオ de ハンドメイド&フリーマーケット」を開催し、フリーマーケットのほか、カリヨンの生演奏やスタンプラリー、ハロウィンビンゴ大会、ハンドメイドのワークショップ等が行われ、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、アリフリを継続して開催することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑬. 日本酒の日記念イベントの開催(伊丹酒造組合、伊丹市など)

事業実施期間	平成 16 年度～【実施中】
事業概要	清酒発祥の地 PR のため日本酒の日にイベントを開催する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし

び支援期間	
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 例年、10月1日の「日本酒の日」に中心市街地において清酒をPRするイベントを開催しており、令和5年度は、白雪ブルワリービレッジ長寿蔵駐車場において、伊丹酒造組合蔵元の4銘柄のきき酒セット等の販売をはじめ、鏡開きも行われた。先着100人にはオリジナル木杓のプレゼント企画では、整理券配布時間の前に定員に達するなど好評で、鏡開きの後に行われた振舞い酒にも長蛇の列が出来るなど、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、清酒をPRするイベントを継続して開催することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑭. 西台3丁目分譲マンション建設事業(民間事業者)

事業実施期間	令和4年度【済】
事業概要	区域内の商業地域に14階建の分譲マンションを建設することで、中心市街地内の居住人口の増加を図り、さらなるまちなか居住を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 西台3丁目に14階建て83戸の分譲マンションが令和4年7月に建ち、間取りも1LDK～4LDKと単身からファミリー層が購入可能な物件で完売となるなど、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、当該マンションにおける売り物件等の動向を注視しつつ、中心市街地内における新たな分譲マンション等の建設動向についても、庁内関係部署とも連携することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑮. 伊丹はぐくみ中央保育園開設(認可保育事業)(民間事業者)

事業実施期間	令和4年度【済】
事業概要	阪急伊丹駅周辺において認可保育所を開設することで、中心市街地をはじめとした市内の待機児童の解消を図り、さらなるまちなか居住を促進する。

国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 中央 4 丁目に 0 歳児～5 歳児までを受け入れる、定員 60 人の認可保育所がオープンしたことで、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、当該保育所の定員割れ等の動向を注視しつつ、中心市街地内における新たな認可保育所等の開設動向についても、庁内関係部署とも連携することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

⑩. トレジャーキッズいたみ保育園開設(認可保育事業)(民間事業者)

事業実施期間	令和 4 年度～令和 5 年度【済】
事業概要	阪急伊丹駅周辺において認可保育所を開設することで、中心市街地をはじめとした市内の待機児童の解消を図り、さらなるまちなか居住を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	保育所等整備交付金(厚生労働省)(令和 4 年度～令和 8 年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：40,180 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、流動人口の増加を目指すことから、個別の数値は未設定。 西台 5 丁目に 0 歳児～5 歳児までを受け入れる、定員 60 人の認可保育所が令和 5 年 4 月にオープンし、中心市街地内の流動人口の増加に寄与した。
事業の今後について	今後も、当該保育所の定員割れ等の動向を注視しつつ、中心市街地内における新たな認可保育所等の開設動向についても、庁内関係部署とも連携することで、さらなる中心市街地内の流動人口の増加を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗しており、中心市街地内の流動人口は昨年度を上回る 104,460 人であった。今後は、さらなる流動人口を増加させるため、三軒寺前広場をはじめとした中心市街地内での様々なイベントについて継続して実施していくとともに、民間団体が主催するイベントとも連携、協力して、回遊性向上や来街機会の増加に寄与する事業に取り組んでいく。

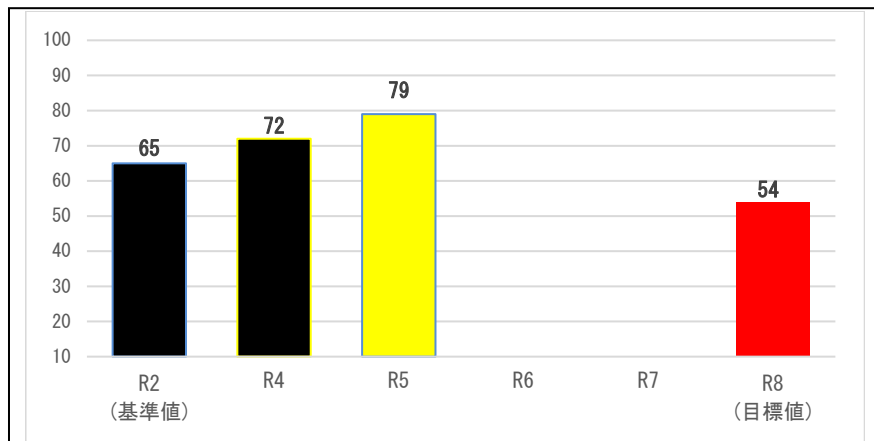
また、令和 4 年度は民間分譲マンション 1 棟の建設、認可保育所 1 ヲ所の開設が行われたが、令和 5 年 4 月にオープンした認可保育所をはじめ、中心市街地内の他の民間分譲マンションや認

可保育所等の建設・開設動向を注視しつつ、市内の関係部署と連携しながら、流動人口の増加を目指していく。

(3)「中心市街地における1階の空き店舗数」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 106～P. 107 参照

●調査結果と分析



年	(店舗)
R2	65 店舗 (基準年値)
R4	72 店舗
R5	79 店舗
R6	店舗
R7	店舗
R8	54 店舗 (目標値)

※調査方法： 中心市街地内を現地確認(視認ならびに近隣への聞き取り)

※調査月： 令和5年度(令和5年10月～11月)

※調査主体： 伊丹市

※調査対象： 中心市街地

(単位：店舗)

地区		R2 (基準年)	R3	R4 (1年目)	R5 (2年目)	R6 (3年目)	R7 (4年目)	R8 (5年目)
空き店舗数	宮ノ前	7	7	7	7			
	伊丹	12	10	9	10			
	中央	70	74	73	74			
	西台	40	43	55	51			
	計	129	134	144	142			
1階空き店舗数	宮ノ前	7	7	7	7			
	伊丹	10	7	7	9			
	中央	33	32	36	40			
	西台	15	20	22	23			
	計	65	66	72	79			

〈分析内容〉

「中心市街地の1階空き店舗数」は、年々増加傾向であり令和5年度には79店舗と基準年より14店舗増加したものの、空き店舗数全体では142店舗となり前年より2店舗減少した。

「中心市街地の1階空き店舗数」についてエリア別にみると、宮ノ前は基準年から±0店舗の7店舗(割合:10.8%→8.4%)、伊丹は基準年から▲1店舗減の9店舗(割合:15.4%→10.8%)、中央は基準年から+7店舗の40店舗(割合:50.8%→50.6%)、西台は基準年から+8店舗の23店舗(割合:23.1%→27.7%)と、中央が一番多く、増加割合では西台が一番となった。

また、令和5年度の業種別にみると、物販が31店舗(宮ノ前6店舗、伊丹4店舗、中央17店舗、西台4店舗)と一番多く、次いでサービス20店舗(宮ノ前0店舗、伊丹2店舗、中央12店舗、西台6店舗)、飲食17店舗(宮ノ前1店舗、伊丹2店舗、中央8店舗、西台6店舗)、その他11店舗となった。

1階の空き店舗増加の要因としては、新型コロナウイルス感染症をきっかけとした閉店等依然影響が大きく、国・県・本市による様々な事業者支援を行ってきたものの、店主の高齢化や後継者不足等による閉店、廃業も相まって増加したものと考えられる。

一方で、昨年空き店舗であった1階部分について、新たに14店舗が出店されており、また中心市街地内の営業店舗としても過去5年間で最多となるなど、中心市街地での新規出店が継続して見受けられている。

引き続き「商店街等活性化補助事業」を通じて各商店街への誘客を促進するとともに、「創業塾」や「創業支援事業」を通して新たな商売の担い手を育成し、「エリアマネジメント促進事業」によって、エリアの価値向上を図ることで、中心市街地における1階空き店舗の解消に取り組む。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 創業支援事業(伊丹市)

事業実施期間	令和3年度～【実施中】
事業概要	中心市街地をはじめ、市内における新規創業に対し、店舗等の賃借料の一部を補助し、創業者の負担を軽減する等の支援を予算の範囲内において行う。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和4年度～令和8年度) ※中心市街地活性化ソフト事業の支援対象は、中心市街地区域内で実施する分のみ。
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値:15件減少(R4～R8) 最新値:3件減少(R4～R5) 令和5年度は、市全域で30店舗を支援したが、中心市街地内で10店舗が新規に創業し、昨年度の1店舗創業から大きく増加した。10店舗のうち2店舗は1階の出店となり、中心市街地における空き店舗解消に寄与した。
事業の今後について	当該事業を継続し、創業希望者・新規出店者への効果的な情報提供を行いながら、引き続き中心市街地における1階の空き店舗解消を目指す。

②. エリアマネジメント促進事業(伊丹市中心市街地活性化協議会、伊丹まち未来(株)、伊丹市、

伊丹商工会議所、商業者組織など)

事業実施期間	令和 4 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地内の空き店舗等遊休不動産を活用した事業に取り組むことで、各エリアの価値向上につなげる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地商業活性化診断・サポート事業(経済産業省) (令和 4 年度～令和 8 年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：2 件減少(R4～R8) 最新値：0 件減少 (R4～R5) 令和5年度は、中心市街地における1 階の空き店舗のオーナーに今後の活用について意向調査を行った。引き続き中小機構(経済産業省)のアドバイザーの派遣を受け、エリアマネジメント事業に関する基礎的な内容を中心市街地活性化協議会事務局で学び、協議会メンバーや商業者、不動産事業者、地権者、市民等を対象としたセミナー型の勉強会を実施した。また、道路等の公共空間を活用した各エリア価値向上に資する取組みについても、合わせて協議・検討を行った。
事業の今後について	引き続き、中心市街地における空き店舗や中心市街地での出店希望者の情報収集・支援を行い、中心市街地における 1 階の空き店舗解消を目指す。

③. 空き店舗情報バンク・マッチング事業(伊丹市、伊丹市中心市街地活性化協議会など)

事業実施期間	令和 3 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地内の空き店舗情報を一元化し、出店を検討している者に空き店舗や制度等に関する情報を提供するための発信を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：5 件減少(R4～R8) 最新値：1 件減少 (R4～R5) 令和5年度においては、空き店舗情報の掲載依頼はなかった。
事業の今後について	引き続き宅建協会をはじめ、本市の不動産事業者への案内を通じて、中心市街地内の空き店舗の掲載を行っていくとともに、本市独自の支援制度の案内もあわせて行えるようにホームページの充実を図ることで、中心市街地における 1 階の空き店舗解消を目指す。

④. 商店街等活性化補助事業(伊丹市)

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	活性化を推進しようとする市内の商店街等イベント等のソフト事業の実施に要する費用の一部を補助することにより、市内商業の振興発展を図り、中心市街地の空き店舗数の解消に繋げる。

国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業(総務省)(令和4年度～令和8年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：－※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、1階空き店舗数の減少を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和5年度は、市内17商店会組織のうち9商店会に補助を行い、そのすべてが中心市街地内の商店会であった。商店会が行う「伊丹郷町屋台村」等、歳末セールや抽選会等の活性化イベント、商店街等PRなどへ補助することで、中心市街地内の魅力向上が図られ、中心市街地における1階の空き店舗解消に寄与した。
事業の今後について	今後も、商店会組織が独自で行う活性化イベント、商店街等PRへの支援を継続的に行い、さらなる中心市街地における1階の空き店舗解消を目指す。

⑤. チャレンジショップの開催(伊丹市中心市街地活性化協議会など)

事業実施期間	令和4年度～【実施中】
事業概要	中心市街地の商店街などの空き店舗、空きスペースなどを利用して、起業を考えている方等に情報提供し、安い家賃で一定期間試験的に貸し出すことで、中心市街地の空き店舗数の解消に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：－※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、1階空き店舗数の減少を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和5年度は、中心市街地における1階の空き店舗のオーナーに今後の活用について意向調査を行った。また、引き続き中小機構(経済産業省)のアドバイザーの派遣を受け、エリアマネジメント事業に関する基礎的な内容を中心市街地活性化協議会事務局で学び、協議会メンバーや商業者、不動産事業者、地権者、市民等を対象としたセミナー型の勉強会を実施した。
事業の今後について	引き続き、中心市街地における空き店舗や中心市街地での出店希望者の情報収集・支援を行い、中心市街地における1階の空き店舗解消を目指す。

⑥. 創業塾の開催(伊丹商工会議所、伊丹市)

事業実施期間	平成18年度～【実施中】
事業概要	創業準備中の方や、将来、起業を考えている方誰もが参加できる創業塾や、女性だけを対象にした女性創業塾を開催し、開業に向けて

	サポートし、商業の担い手を育成することで、中心市街地の空き店舗数の解消に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：－※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、1 階空き店舗数の減少を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和 5 年度は、創業塾に 19 人、女性創業塾に 19 人が受講され、創業の促進を図った。
事業の今後について	今後は、継続して創業塾を開催するとともに、当該創業塾参加者が中心市街地において実際に創業したかどうかの追跡調査等も行いながら、さらなる中心市街地における 1 階の空き店舗解消を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗したものの、中心市街地における 1 階の空き店舗数は増加傾向にある。一方、中心市街地全体では空き店舗数は減少し、営業店舗が過去 5 年間で最多となるなど、中心市街地での新規出店が継続して見受けられる状況にある。

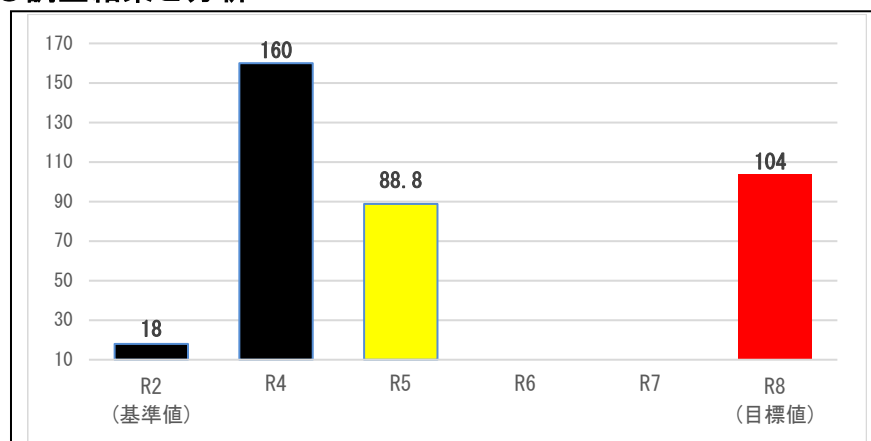
また、新規出店店舗の中には、商店街と民間事業者で連携し、単なる飲食店ではなくこどもたちの新たな滞留・交流空間づくりをテーマとしたイベントを併せて行う店舗もあり、交流人口の増加や地域価値の向上に寄与している新たな事例も見受けられる。

今後も引き続き、エリアの価値向上に資する事業に取り組むとともに、中心市街地における空き店舗や中心市街地での出店希望者の情報収集・支援を行い、中心市街地における 1 階の空き店舗解消を目指す。

（４）「中心市街地における居住人口（社会増減数）」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 108～P. 109 参照

●調査結果と分析



年	(人/年)
R2	平均 18 人/年 (基準年値)
R4	平均 160 人/年
R5	平均 88.8 人/年
R6	平均 人/年
R7	平均 人/年
R8	平均 104 人/年 (目標値)

※調査方法：住民基本台帳データ＋国勢調査推計人口（補完的）

※調 査 月： 令和 5 年(令和 6 年 1 月)

※調査主体： 伊丹市

※調査対象： 中心市街地

(単位：人/年)

地区		R2 (基準年)	R3	R4 (1 年目)	R5 (2 年目)	R6 (3 年目)	R7 (4 年目)	R8 (5 年目)
実績値	転入(a)	633.8 ※531.1	527	697	603			
	転出(b)	512.8	601	555	604			
	社会増減 (a-b)	121.0 ※18.3	▲74	142	▲1			

※基準年である R2 は、H29～R2 までのマンション開発の影響を勘案した値を採用。

マンション開発戸数×1 戸当たり 2.36 人/世帯（伊丹市平均世帯人員）として算出。

〈分析内容〉

昨年度は分譲マンション建設等によって転入者数が超過したが、令和 5 年度においては社会増減数は▲1 となり、市内全体の減少に合わせて中心市街地内も減少している。各事業を継続していくことで中心市街地をはじめとした本市の安全・安心な居住環境の整備を進めるとともに、「シティプロモーション事業」で子育て世代をターゲットにしたリスティング広告

（Google）や SNS 広告（LINE）を活用し本市の魅力発信を行うことや、伊丹商工プラザの男女共同参画センター「ここいろ」内に常設のひろばを開設し、遊びや交流、育児相談の場を提供する「地域子育て拠点支援事業」など、居住環境の付加価値を高めるための取り組みを継続することで、中心市街地における居住人口の増加を目指す。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 西台 3 丁目分譲マンション建設事業(民間事業者)

※再掲

事業実施期間	令和 4 年度【済】
事業概要	区域内の商業地域に 14 階建の分譲マンションを建設することで、中心市街地内の居住人口の増加を図り、さらなるまちなか居住を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：196 人増(R4～R8) 最新値：196 人増 (R4) 西台 3 丁目に 14 階建て 83 戸の分譲マンションが令和 4 年 7 月に建ち、間取りも 1LDK～4LDK と単身からファミリー層が購入可能な物件であり完売となったことから、本市の平均世帯人員

	2.36 人を掛け合わせると、目標値としていた 196 人の中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与した。
事業の今後について	当該事業は当初の目標値を達成した。今後は、当該マンションにおける売り物件等の動向を注視しつつ、中心市街地内における新たな分譲マンション等の建設動向についても、庁内関係部署とも連携することで、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。

②. 伊丹はぐくみ中央保育園開設(認可保育事業)(民間事業者)

事業実施期間	令和 4 年度【済】
事業概要	阪急伊丹駅周辺において認可保育所を開設することで、中心市街地をはじめとした市内の待機児童の解消を図り、さらなるまちなか居住を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：85 人増(R4～R8) 最新値：85 人増(R4)(伊丹はぐくみ中央保育園・トレジャーキッズいたみ保育園2保育園の合算値) 中央 4 丁目に 0 歳児～5 歳児までを受け入れる、定員 60 人の認可保育所がオープンしたことで、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与した。
事業の今後について	今後も、当該保育所の定員割れや毎年の入園人員状況等の動向を注視しつつ、中心市街地内における新たな認可保育所等の開設動向についても、庁内関係部署とも連携することで、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。

③. トレジャーキッズいたみ保育園開設(認可保育事業)(民間事業者)

事業実施期間	令和 4 年度～令和 5 年度【済】
事業概要	阪急伊丹駅周辺において認可保育所を開設することで、中心市街地をはじめとした市内の待機児童の解消を図り、さらなるまちなか居住を促進する。
国の支援措置名及び支援期間	保育所等整備交付金(厚生労働省)(令和 4 年度～令和 8 年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：85 人増(R4～R8) 最新値：85 人増(R4～R5)(伊丹はぐくみ中央保育園・トレジャーキッズいたみ保育園2保育園の合算値) 西台 5 丁目に 0 歳児～5 歳児までを受け入れる、定員 60 人の認可保育所を令和 5 年 4 月にオープンし、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与した。
事業の今後について	今後も、当該保育所のオープンや定員割れ、毎年の入園人員等の

て	動向を注視しつつ、中心市街地内における新たな認可保育所等の開設動向についても、庁内関係部署とも連携することで、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。
---	---

④. 公衆トイレ改修事業(伊丹市)

事業実施期間	令和 4 年度～【実施中】
事業概要	老朽化が進んでいる中心市街地内の 2 カ所の公衆トイレについて、バリアフリー設備など誰もが使いやすい機能の充実、改修等を行うことで、歩きやすく快適な都市空間の創出や中心市街地内での回遊性を高め、中心市街地の居住人口の増加に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地再活性化特別対策事業(総務省) (令和 4 年度～令和 8 年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：149 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、居住人口増加(社会増)を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和 5 年度は JR 伊丹駅側の公衆トイレの整備方針について、地域住民との協議を複数回行うとともに、阪急伊丹駅側の公衆トイレについて、住民協議に先駆けた庁内での整備方針の検討を行うとともに、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与すべく、住環境向上に資する事業の可能性調査を行った。
事業の今後について	中心市街地外における同種先行事業の見学会を行い、JR 伊丹駅側の公衆トイレ及び阪急伊丹駅側の公衆トイレの整備方針について地域住民意見の聴取を行うことで、住環境向上に資する改修等に向けた整備基本計画策定の準備を進め、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。

⑤. 地域子育て支援拠点事業(伊丹市)

事業実施期間	令和 2 年度～【実施中】
事業概要	商工プラザの男女共同参画センター「ここいろ」内に常設のひろばを開設し、親子で気軽に集い、遊びや子育て家庭の相互交流を促進し、子育て家庭と地域をつなぐ場として機能させ、地域ぐるみで子育てを応援する体制を整える。
国の支援措置名及び支援期間	子ども・子育て支援交付金(内閣府)(令和 4 年度～令和 8 年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：149 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、居住人口増加(社会増)を目指すことから、個別の数値は未設定。 「いたみむっくむっくルーム」では、0～3 歳児の子どもと保護

	者（市内在住・在勤）が気軽に利用できる親と子の育ちの場として、令和５年度は、年間 9,979 人の利用があるなど、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与すべく、住環境向上に資する事業を進めている。
事業の今後について	今後も、利用人数の増加に向けたPR等の取り組みなど、住環境向上に資する事業を進め、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。

⑥. シティプロモーション事業(伊丹市)

事業実施期間	平成 27 年度～【実施中】
事業概要	対象を子育て世代に特化した「住みたいまち伊丹」、清酒文化を伝える「清酒発祥の地 伊丹」など、ターゲットを絞った、戦略的なシティプロモーションを推進することにより、「まちの魅力」を「戦略的・効果的に」発信し、中心市街地の居住人口の増加に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：149 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、居住人口増加（社会増）を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和５年度は、移住・定住を促進するため、市の観光スポットや子育て施策などの魅力を紹介している新PR 冊子「イイ！いたみ」を 8,000 部発行し、市外からの来訪者の多い大型商業施設や公共施設、不動産事業者等、さらには市内外でのイベント等で配布した。 また、本市への来訪のきっかけ作りとして伊丹大使を活用した事業を実施した他、本市の魅力を市内外へ情報発信するとともに、引っ越し検討者で近隣市に居住している主に 20 代～30 代の子育て層をターゲットに本市の魅力を発信するために、リスティング広告（Google）と SNS 広告（LINE）を活用し本市シティプロモーションサイト「未来へつなぐまち伊丹」への誘引を図ることを目的とした事業を進めた。 その他、「清酒発祥の地 伊丹」のPRについては、令和 2 年 6 月に認定を受けた日本遺産の認知度向上及び観光客誘致に向けた動画による情報発信やイベント等を通じて行うなど、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与すべく、住環境向上に資する事業を進めている。
事業の今後について	今後も、中心市街地をはじめとした本市への移住・定住に向け、様々な媒体を活用したシティプロモーション活動を継続して取り組むなど、住環境向上に資する事業を進め、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。

⑦. 男女共同参画センター事業(伊丹市、NPO 法人女性と子どものエンパワメント関西)

事業実施期間	令和 2 年度～【実施中】
事業概要	男女共同参画の拠点施設「男女共同参画センターここいろ」において、市民活動・交流の支援事業や各種相談、啓発事業、情報提供を行い、性別にかかわらず全ての人が安心して地域社会で生き生きと暮らせるまちの実現を目指し、来街者の増加及びまちの定住人口の増加に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：149 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、居住人口増加（社会増）を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和 5 年度は、男女共同参画に関するさまざまな講座やイベントを 76 件開催し、1,098 人の参加があった。また、女性のためのカウンセリングや就職・起業・資格取得への相談、男性のための悩み相談などを行い、609 人の相談があった。 その他、女性や男女共同参画に関する図書の閲覧や貸し出しを行うとともに、男女共同参画社会づくりを目指すグループや団体・個人の活動する場所や情報などを提供するなどの、市民活動支援も行っており、現在 4 団体の登録があり、施設内外で様々な取り組みを行うなど、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与すべく、住環境向上に資する事業を進めている。
事業の今後について	令和 5 年度から 5 年間、引き続き現在の指定管理者による当該施設での活動が行われることから、今後も、中心市街地をはじめとした本市の男女共同参画の拠点として、住環境向上に資する事業を進め、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。

⑧. まちなみ景観整備促進事業(伊丹市)

事業実施期間	昭和 59 年度～【実施中】
事業概要	兵庫県的一般市で初めて景観条例を制定した本市では、景観条例に基づいた落ち着いたまちなみ景観を形成することで、交流人口の増加及び来街者の回遊性を向上させることにより、中心市街地の居住人口の増加に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：149 人増(R4～R8)※ 最新値：－

	※当該事業を含めた全体の取り組みにより、居住人口増加（社会増）を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和５年度は、景観法並びに景観条例に基づき、中心市街地内に設定された特定のエリア（景観計画区域）における建築物の新築等に係る届出件数が２件あるなど、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与すべく、住環境向上に資する事業を進めている。
事業の今後について	前計画期間中と同様に、年度によって当該助成・届出件数に差があるものの、引き続きまちなみ景観の形成を図るための、住環境向上に資する事業を進め、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。

⑨. 安全・安心見守りカメラ整備事業(伊丹市)

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	全国で発生した子どもが被害者となる事件や、平成 26 年に市内で発生した局地的豪雨被害等から、安全・安心見守りカメラを平成 27 年度より順次設置し、犯罪への抑止力や事件・事故の早期解決等多目的に利用してきた。中心市街地に 45 台設置されたカメラをはじめ、市内 1,200 台の更新等を行うことで、安全・安心なまちづくりを推進し、中心市街地の居住人口の増加に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：149 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、居住人口増加（社会増）を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和５年度は、これまで市民や関係機関から寄せられた意見等を勘案しながら、事業者との更新や再配置等について協議を進めるなど、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与すべく、住環境向上に資する事業を進めている。
事業の今後について	機器の耐用年数が経過したため、令和６年度から令和７年度にかけて安全・安心見守りカメラを一斉に更新することで、これまでと同様に、犯罪の抑止、事件・事故の早期解決等を図るなど、住環境向上に資する事業を進め、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。

⑩. まちなかミマモルメ整備事業(伊丹市)

事業実施期間	平成 28 年度～【実施中】
事業概要	安全・安心見守りカメラとあわせ、ビーコン受信器を整備し、ビーコン発信器を持った子どもの登下校や認知症高齢者の徘徊等の位置情報を、家族や保護者のスマートフォン等に通知するサービスを

	行うことで、安全・安心なまちづくりを推進することで中心市街地の定住人口の増加に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：149 人増(R4～R8)※ 最新値：－ ※当該事業を含めた全体の取り組みにより、居住人口増加（社会増）を目指すことから、個別の数値は未設定。 令和 5 年度は、市内に 1,347 台設置したビーコン受信機による位置情報通知サービスを行ってきた。 また、さらなる利用促進のため、小学校 1 年生を対象に無料キャンペーンを実施し、さらには認知症高齢者、障がい者（児）についても要件を一定クリアすれば無料で利用できるなど、現在 6,167 人の人が利用している。 特に、子どもや認知症高齢者等が行方不明になり捜索が必要な場合に、捜索に協力するボランティア市民も昨年より約 100 人増の 2,664 人になり、行方不明者の捜査を行うなどの、地域ぐるみの見守り体制が構築されていることから、中心市街地における居住人口の増加(社会増)に寄与している。
事業の今後について	今後も、「まちなかミマモルメ」のさらなる普及のため、ビーコン受信機の設置・更新や利用者拡大を計画的に進めるなど、住環境向上に資する事業を進め、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗しており、今後は「市道中央天津線他電線共同溝整備事業」や「まちなみ景観整備促進事業」「安全・安心見守りカメラ整備事業」「まちなかミマモルメ整備事業」、などのハード整備を計画的に取り組むとともに、「シティプロモーション事業」では、伊丹大使を活用した事業を実施し本市の魅力を市内外へ情報発信するとともに、特に近隣市に居住している子育て世代をターゲットに、リスティング広告（Google）と SNS 広告（LINE）を活用するなど、本市、中心市街地の魅力を発信し続け、伊丹商エプラザの男女共同参画センター「ここいろ」や「いたみむっくむっくルーム」における様々な取り組みを通じて、居住環境の付加価値を高め、さらなる中心市街地における居住人口の増加(社会増)を目指していく。